

研究結果

本研究は、特定の日本古典詩歌のジャンルにおける意味内容・リズム・句切れなどの要素を分析し、それらの特徴を総合的に反映させた、合理的な漢訳形式を探るものである。

「57577」音に表現される和歌に対しては、漢字「三四三四三」の形式による翻訳案を提出した。古典詩歌において、漢字の1字は仮名2音の意味内容量及び音量に相当する。31音の和歌は内容的に漢字の15.5字前後にほぼ相当する。意味内容においては、「三四三四三」の形式は延べ17字であり、和歌に比較的近いものである。リズムにおいては、和歌のそれぞれの句の音拍構造及び休音の有無とが一致する。句切れにおいては、「三四三四三」の訳文を当てて、「五七調」の和歌は「七七三」の形に、「七五調」の和歌は「三七七」の形に更に調整することで、和歌の内部構造を反映させることが可能である。

「575」音に表現される俳句に対しては、「一語と一句を重ねる」形の翻訳案を提出した。

「や」「けり」といった切れ字の存在は、俳句の表現特徴に大きな影響を与えている。それが翻訳されないため、17音の俳句は内容的に漢字の8字前後にほぼ相当する。切れ字により、俳句の内部構造は5音の句と75音の詩聯という二部分に分かれ、両者の間には歴然としたリズムの休止が置かれる。俳句のこの構造に合わせ、その5音の句を二字あるいは三字に訳し、75音の詩聯を五字あるいは七字に訳する。

和歌はリズム感を重んじる詩型であり、その特徴を再現するために定型訳を用いた。それに対し、俳句は意味内容の簡潔さや「含み」などを重んじる詩型であり、なるべく原文にない内容は入れなかったが、それが非定型訳を用いた所以である。

新体詩に関しては、土井晩翠の「荒城の月」と「星落秋風五丈原」を対象に研究した。「七五調」によるこれらの作品は、意味内容、リズムなどの面から、中国伝統の七言詩がその翻訳形式として相応しいという結論に至った。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「和歌・俳句をどのように漢詩に翻訳するか」金中

東京都北区日中友好協会講演会、2009 年 10 月 13 日、於日本東京北区北とぴあ

「和歌の漢訳について——漢字『三四三四三』の形式」金中

「教養日本力」高度化推進プログラム、2009 年 10 月 15 日、於日本東京外国語大学

「七言詩形式的日本新体詩翻訳——以土井晩翠『星落秋風五丈原』為中心」金中

第五回全国大学日語教育国際研討会、2009 年 12 月 12 日、於中国同濟大学

「中日成語典故的表達之別——兼論日本文語詩歌翻譯中的動詞添加」金中

第二回漢日對比語言學研討会、2010 年 8 月 14 日、於中国黒龍江大学

「論和歌与俳句的翻譯形式——結合不同詩型的表現特色」金中

日本文学研究会十二回年会暨国際學術研討会、2010年8月19日、於中国延辺大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「『三四三四三』形式による和歌の漢訳」 金中 (『中国詩文論叢』第 28 集、2009 年 12 月)

「古池、蛙縦水声伝——一詞加一句形式的俳句翻訳」 金中

(『外語研究』2010 年第 1 期、2010 年 2 月)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)